

国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点について

(西普天間住宅地区における国際医療拠点の形成に関する協議会報告) H29.4.26

沖縄の医療の国際性

- ・沖縄の医療は戦後、米国の協力の下に整備
- ・インバウンドが増加し感染症流入のリスク

広域・多数の島からなる沖縄の医療の特性

- ・離島及びへき地での医療体制確保が必要
- ・遺伝学的に特徴的な体質や疾病構造が存在

西普天間住宅地区跡地に琉大医学部・病院を移設し、沖縄の医療体制の中核となる医療拠点を整備

①高度医療・研究機能の拡充

○バイオバンク

- ・沖縄県民のゲノムの生体情報と医療情報システムを融合したバイオインフォメーションバンクを整備

○生物資源ライブラリ

- ・創薬研究への橋渡しとなる生物資源を保管・活用

○感染症対策

- ・感染症対策の研究・臨床機能を拡充

○創薬開発、医工連携

※OIST等の国内外の関係機関と連携して実施

②地域医療水準の向上

○県内医療機関への医師派遣機能強化

○がんセンターの機能強化 等

③国際研究交流、医療人材育成

○海外大学、研究機関等との共同研究

○高度医療や地域医療に必要な人材育成

- ・バイオ産業の基盤を整備し、創薬開発等を通じて**沖縄振興へ貢献**
- ・沖縄の公衆衛生、地域医療水準の向上等を通じて**「長寿県沖縄」の復活**
- ・感染症対策等を通じて**国際保健(グローバル・ヘルス)への貢献**